

2021.02.21 続けていることを続ける

新約聖書 テトス1章 1～3節

おはようございます、第二礼拝へようこそ。日曜の朝は二つの礼拝があります。第一礼拝は、毎週の「聖書預言・アップデート」で、第二礼拝は、聖書を通して節ごとの「聖書の学び」です。先週「テモテへの手紙第二」を学び終えました。今日から本当に楽しみにしていた「テトスへの手紙」を始めます。今日の聖書箇所は、1章1節から3節です。まだの方は、その箇所をお開き下さい。その間に、ウェブサイト "JDFarag.org" について、最新情報を少しお知らせさせていただきます。オンラインでご視聴の方々、皆さんの継続的なご忍耐に非常に感謝しています。しかしもっと重要なのは、皆さんのお祈りです。私たちには素晴らしいチームがおり、彼らは疲れ知らずに作業中で、ベストを尽くしてくれています。その結果、順調に進行中で、とても嬉しく思っています。まず、ライブ配信についてです。これは第一礼拝の「聖書預言・アップデート」にのみ適用されます。画面のホームページ左下にある「聖書預言ライブ配信を見る」を選択すると、ライブ配信中の動画をご覧いただけます。特に、YouTube や Facebook でライブ配信をご覧の方は、配信はイントロダクションのみですので、初めからウェブサイトで、検閲不可、完全版の「聖書預言・アップデート」をご覧になるのをお勧めします。繰り返しますが「預言・アップデート」の YouTube や Facebook などのソーシャルメディアでのライブ配信は、イントロダクションのみの配信です。2つ目は、皆さんにご注意いただきたいことです。これは本当に重要です。なぜなら、多くの人々がライブ配信を見逃したり、何かが起こった場合、どのようにして「預言・アップデート」を見れるのかとお困りだからです。写真は、サイト上部にあるメニューバーのスクリーンショットです。この [PROPHECY VIDS] を選択すると、[Bible Prophecy Updates] のページに移動し、[聖書預言] をお選びいただけます。なお、今日の第一礼拝の「預言・アップデート」は、今は未だそこにはありません。どうか、いま暫くご辛抱下さい。あと一時間くらい後に動画がアップロードされますので、その後、選択できるようになります。この画面は、先週2月14日の「聖書預言・アップデート」「分裂と征服/Divide & Conquer」です。アップデートを選択すると、該当のアップデート動画に移動します。次に、現在利用可能な”共有/Share”、”ダウンロード”機能があります。さて、これは数日かかりますが...すみません、それは、文書版（文字おこし）のことでした。字幕付きの動画をアップロードするには、数時間、あるいは一昼夜ほど必要です。聴覚障害者向けの字幕付きの動画です。先週のアップデートは完了しています。出来るだけ早く、アップロードします。大勢のオンラインメンバーが、字幕付き動画を利用されているのを存じています。文書版（文字おこし）も同様です。私たちには、天に宝を積んでいる素晴らしいチームがいて、実際彼らは「聖書預言・アップデート」の一字一句を書き写しているのです。それを PDF ファイルで、全預言アップごとに表示します。これが完成までに数日かかるもので、完成したらそれを選択し、ダウンロードし、印刷いただけます。また、「聖書預言・アップデート」内での参照リンクは既にあるので、それを選択するだけで OK です。改めて、皆さんのご忍耐を感謝します。最後に一つ、注意してもらいたいことがあります。ますます酷くなってきていることですが、ソーシャルメディア上で、私たちの写真や情報を使って偽アカウントを作成し、人々からお金を騙し取ろうとする詐欺師がまだいるのです。特にこれは、私たちの Facebook のフォロワーに、引用：「メッセージをください。」とメッセージしています。それは、私ではありません！ 私たちはそんなことはしません！ もう一つ、これは YouTube で定期的に起こっていることです。実際、今日も起こっていると思います。発見次第すぐに通報して下さい。私たちは、

絶対に、絶対に、絶対にお金を要求しません。しかし彼らは要求します。これは、詐欺行為です。YouTubeで私のふりをして、孤児院への寄付を募ってます。どうか、こんな人たちに騙されないでください。むしろ、この人たちのために祈ってください。彼らは、主を必要としています。皆さんに注意していただきたく、お話し致しました。私たちは、誰にもメッセージは送りませんし誰にもお金を要求したりしません。では「テトスへの手紙1章、1から3節」です。可能であればお立ちになって、私が読みますのでついてきて下さい。ご無理であれば、座ったままで結構です。私は、この書にワクワクしています。パウロからの手紙です。1節からですが、今日は最初の3節だけを学ぶつもりです。お気づきでないかもしれませんが、これは3節全部で1文です。3節なので、息を吸い込み、なんとか一息で読みます。

### テトスへの手紙1章

1 神のしもべ、イエス・キリストの使徒パウロから。——私が使徒とされたのは、神に選ばれた人々が信仰に進み、敬虔にふさわしい、真理の知識を得るため、

2 それは、偽ることのない神が永遠の昔から約束してくださった、永遠のいのちの望みに基づくものです。

3 神は、定められた時に、みことばを宣教によって明らかにされました。私はこの宣教を、私たちの救い主である神の命令によって委ねられたのです——

では、御言葉への私たちの理解を神が祝福くださるよう、一緒にお祈りしましょう。

愛する天の父よ、あなたの御言葉、今日ここにあるこの箇所に、心から感謝します。

主よ、私たちは今、あなたを切実に必要としています。あなただけが、私たちの心を落ち着かせ、静めてくださるのです。様々なことが私たちの思考に入り、気が散りますが主よ、今日の私たちのために、ご用意してくださったものを、見逃したくはありません。敵は、私たちの気を逸らせることに一心でそう仕向けて来ます。主よ、私たちが集中し、全てをあなたに向けることができるようにしてください。主よ、あなたの御言葉を通して、私たちの人生に語りかけてください。主よ、感謝します。お語りください、あなたのしもべは聞いています。イエスの御名において、アーメン。アーメン。

ご着席ください、ありがとうございます。今日は、終わりの日の私たちクリスチャンが、なぜ、そしていかに「続けている事を続ける」ことができるのかの両方についてをお話したいと思います。私たちに必要なのは、使徒パウロが経験したすべての苦難と困難を考えることです。私たちには、パウロのコリントの教会宛の手紙で、彼が難破し、ぶたれ、鞭打たれ、死に至らしめるよう石打ちにされた事など、すべての詳細があります。そして、これらのこと全てから、“どうやって?”という疑問が生じます。使徒パウロは、どうやって全ての事に最後まで耐え忍ぶことができたのでしょうか? ありがたいことに、今日の「テトスへの手紙」でパウロは、なぜ、どうやって、死の淵に追いやられた後も耐え忍び、決して諦めなかったのか、その両方の疑問に答えています。さて始める前に、先週の「テモテへの手紙第二」の教えを正してくださった、地元とオンラインのベレアの方々に感謝したいと思います。ご存知の通り、先週「第二テモテ」を終えたのですが、私は間違っ、恐れ多いことに、プリスカとアキラが、もっと正確に説明するため、脇に呼んだのが、パウロだと言ってしまいました。なんて恐れ多いことでしょうか。私は間違っていました。問題は、それはパウロでなくアポロでした。皆さんのご想像通り、このことをこの教会のプリスカとアキラが私を脇に連れて行ってくれた時、愕然としました。彼らの心を祝福してください。ところで、本当にありがとうございました。それは、全くもって皮肉なことでした。彼らは、プリスカとアキラが、もっと正確に説明するために脇に連れていった人に関して、私の話が不正確だったことを指

摘するために、私を脇に連れて行ってくれたのです。その箇所はなんと、私が「使徒の働き」で教えた箇所です。「主よ、本当にすみません。」皆さんにも大変申し訳ないです、お許してください。なんということでしょう。私は、もっと正確である必要があります。私を脇に連れて行ってくれたプリスカとアキラに、本当に感謝します。それはパウロではありません。訂正します。アポロでした。よろしいですか？

というわけで、神の憐れみをいただき、もっと正確な働きをするため最善を尽くします。私たちは今日「テトス書」の御言葉を始めますがいつも通り、今日の御言葉が私たちの人生へと語りかけてきます。それは、聖書の何処を学んでも、神の御言葉は生きていて、私たちが人生の何処にいるのかを語っています。今日のテトスの場合もそうですが、御言葉は、こんにちの世界で起こっている全てのことと共に、今日まさに、私たちが世のどこにいるのかを語ります。この節を教えることについて主に求め祈っていたとき、主は私に、物事が本当に難しくなっているから、希望と励ましのメッセージを伝えることを示唆されました。皆さんも同意されると思います。今日の「聖書預言・アップデート」でも話しましたが、ますます酷くなってきそうですね。イエィ！しかし、神は、使徒パウロがこの手紙を書いたのは、「テモテへの手紙第一」を書いた直後という説があります。なぜなら、私たちは「テモテへの手紙第二」が、パウロの最後の手紙だと分かっていますから。ですから、彼はこれをその前に書いていたはずで、「テモテへの手紙第一」を書いた時期に近いのではないかという説があります。この手紙の内容と、似たようなことがたくさんありますよね。しかし、この手紙を書いた時パウロは、寒く、暗く、湿った地下牢に座っていて、自分が首を刎ねられるのが時間の問題だと分かっていたのです。だからテモテに

**「私が世を去る時がきました。私はそれを分かっています。」(第二テモテ 4:6)**

と手紙を書いたのです。しかし、

**「私は勇敢に戦い抜き、走るべき道のりを走り終え、信仰を守り通しました。」(第二テモテ 4:7)**

**「あとは、義の栄冠が私のために用意されているだけです。私だけでなく、主の現れを慕い求めている人には、だれにでも授けてくださるのです。」(第二テモテ 4:8)**

彼は、誰のことを言っているか分かりますか？ 皆さんや私のことです。要点はこうです。パウロの人生のこの時期は、本当に辛い時です。パウロは、テモテとテトスをととても愛していました。彼はのちにテトスについて言及しています。主の御心であれば、来週見ますが、信仰の息子としてテモテを深く愛したのと同じなのだ。パウロが彼らに言っていることは「私は、もうすぐいなくなります。」「あなたがたは、もうすぐ私と一緒にはいられなくなります。私がいなくなった後、あなたがたを待ち受けている事に対し、備えさせたいのです。」「それは本当に厳しい、危険な時代でしょう。非常に困難な時になるでしょう。」しかし、この手紙の最初の3節で、彼は、これは、聖霊です。聖霊に促されたものです。

それは、このフレーズは使いたくありませんが、なぜなら、世界が完全に”ハイジャック/乗っ取られて”しまっているからです。そして、アラブ人が”ハイジャック”という言葉を使うべきではないのですが、これが、パウロの成功の秘訣なのです。これが、その方法です。だからこそ、パウロは最後まで耐えることができたのです。彼は、私たちに理由を教えてください。これが理由なのです。私は4つを見つけました。皆さんは、もっと見つけられるかもしれませんが、クリスチャンとして私たちが、物事ははるかに悪化する可能性が高いので、踏ん張り、続けている事をやり続けるための4つの方法です。

最初のものは、1節の最初の部分にあります。「信仰の促進」です。いつものように、自分のことを、「しもべ」と称して言い始めて、それは、自由になれるにも拘わらず、自分の意志で主人に従うことを選ぶ奴隷のことです。ギリシャ語で「ドゥロス」、契約のしもべ、契約奴隷です。パウロは、キリストに仕え

るのは、信仰を深めるためだと言います。使徒パウロの言葉が聞こえてきそうですね。「だからこそ、私はこれをしているのだ。」「これが私のすることだ。」と人々はよく言いますよね？「これが私のすること。」「パウロに尋ねてみてください。「なぜあなたはそれをしているのですか？」「これが私のことです。」「信仰を深めるためです。」皆さんが私に、終わりの時代のクリスチャンへの、最大の動機付けは何かと尋ねられるなら、これだとお答えするでしょう。つまり、人類歴史の危険な時期に最も必要なことは、神の民として信仰を深めることです。信仰の対極にあるものは、恐れだと同意されますか？ 神は恐れを与えてはられません。信仰は恐怖の対極です。信仰と恐怖は、クリスチャンの生活の中で共存できません。信仰によって生き、信仰と共に歩くか、もしくは、恐怖の中で生きるかのどちらかです。実際皮肉なことに、恐れの特効薬は信仰なのです。なぜなら、恐れの本質は何だと思えますか？ 将来の「もしも...」が恐怖ではないのでしょうか？ では、信仰とは何でしょうか？ お~！

**「さて、信仰は、望んでいることを保証し、目に見えないものを確信させるものです。」ーヘブル人への手紙 11章1節ー**

それについては、結論でもっと話しますが、非常に重要なことなので、よく聞いて下さい。人々が恐怖に苛まれている時代に、神の民として信仰を深めること。世界で起きている不確実性と、すべてのことの故に。こんなふうを考えてみてください。親として、または祖父母であっても、子供が、恐怖の中で生きている姿を見たいですか？ それはあなたの心を、どれだけ傷つけるのでしょうか？ なんて不必要なことでしょう。なんと不要なことでしょう。**「マタイの福音書 6章」**でイエスが、野の花と空の鳥を指してこう仰います。

「これらの花を、これらの鳥を見なさい。」「天の父はこの花を装い、あの鳥を養ってくださいます。」

**「あなたがたには、もっと良くしてくださいさらないでしょうか。信仰の薄い人たちよ。」(マタイ 6:30)**

これを決して、救い主が厳しい口調で仰ったと思わないでください。そんな風には想像しないでください。「ああ、信仰心の薄い者!!!」違います。慈悲、愛、優しさをもって仰っているのです。

「神がこんなに大きいのに、なぜあなたの信仰はそんなに小さいのですか？」イエスが嵐を鎮められたとき、彼らは自分たちの死を恐れました。イエスは再び、愛情をもって、優しく、慈しみと優しさをもって、彼らに問いかけます。

**「なぜ疑ったのですか、なぜ恐れたのですか？」(マルコ 4:40 参照)**

御言葉を通して、何度も何度も、「恐れてはいけません。」と教えておられます。恐れないようにしてください。私はヨシュア、について考えます。ほ~ モーセの後を継ぐのは大変でした。神は、モーセの後継者としてヨシュアを召し、ヨシュアは恐れおののきます。そして、神はどうされましたか？ ヨシュア 1章

**「恐れてはならない。おののいてはならない。」(ヨシュア 1:9)**

**「強くあれ。雄々しくあれ。」**

神は、第一章を通して繰り返しておられます。

**「強くあれ。雄々しくあれ。恐れてはならない。」**

使徒パウロについて考えますが、使徒パウロのことを考えるとき、注意しなければなりません。パウロかアポロか？ いや、あの船に乗っていたのはパウロです。彼がロデオ=難破したのは、これが初めてではありません。ルカは「使徒の働き」の中で、こう詳しく書いています。

**「私たち全員、この嵐から助かる望みも今や完全に断たれようとしていた。」(使徒 27:20 参照)**

“私たち”には、ルカとパウロも含まれており、二人はあの船に乗って「これで終わりだ」と覚悟しました。そして、主の御使いがパウロに現れます。アポロは乗ってなかったので、アポロじゃないのはっきり分かっています。御使いがパウロに現れ、「恐れることはありません。」と告げました。なぜ「恐れてはいけません。」とパウロに言うのでしょうか。パウロは恐れていたからです。これは、今日の私たちへの主からの御言葉だと思います。聞く耳を持つ者のために、御霊がこんにちの教会に仰っています。「恐れてはいけません。」恐れてはいけません。とても大きな神がついておられるのに、信仰が薄くてはいけません。疑ってはいけません。神の民として最も必要としている時に、信仰を深めるのです。

2つ目です。1節の中盤「真理の知識」（※日本語訳聖書と順番が違います）パウロは、信仰が深められると、真理を認識できるという意味で、「信仰の促進」に「真理の知識」を加えています。つまり、恵みの中で成長し、キリストにあって成熟するにつれて、私たちの信仰がさらに深まり、それが真理を知ることにつながるという意味です。これも、結論のところで、もっと詳しく説明したいと思います。世界で起こっている真実を知ることが、終わりの日のこの世界で、私たちを前進させ続けるのだと言わせて頂きます。それについて考えてみてください。あなたが真実を知らなかったとしたら、今頃パニック状態ではないでしょうか？これが私たちが正気を保てる理由ではないでしょうか？大袈裟な話ではなく、文字通りにです。「真理の知識」にしっかり留まることによってです。“知識”という単語は、奥が深いです。Know(知る), K-N-O-W-ledge, know-ledge, knowledge. ご勘弁ください。すぐ片付けますから。これが3つ目に繋がります。1節の後半部分にある「敬虔へと導くこと」です。（※日本語訳聖書と順番が異なります。）ここでパウロはさらに、「信仰の促進」「真理の知識」に加え、敬虔さを生み出すことになっていきます。それが作用する方法です。パウロが語る「真理の知識」は、神の真理の御言葉の具体性とセットであることに留意すべきです。よく聞いて下さい。言い換えれば、その特定の真理を知らなくても、普通の真実は知れます。これは言葉の遊びではありません。一般的真実は知ることができます。それは真実です。それは真実ですが、必ずしも特定の真理であるとは限りません。なぜなら、私たちはその特定の真理が誰であるかを知っているからです。イエスです。彼は、唯一の道であり、唯一の真理であり、唯一のいのちです。（ヨハネ 14:6 参照）

道の一つ、真理の一つ、いのちの一つ、ではありません。「道はたくさんあります。」いいえ、ありません。父なる神への道は一つしかありません。イエスを通す以外の道はありません。「あー、視野が狭いなー。」そうでしょうか？

**「滅びに至る門は大きく、その道は広く、そこから入って行くものが多いのです。」（マタイ 7:13）**

**「いのちに至る門はなんと狭く、その道もなんと細いことでしょう。そして、それを見出す者はわずかです。」（マタイ 7:14）**

わずかです。最後の2～3節に十分な時間を残しておきたかったのですが、言わば、それが今日の結論です。それは望み：「永遠のいのちの望み」です。私たちはこの「永遠のいのちの望み」を、私たちへの祝福された希望と呼びます。しかしこれらの節では、パウロはそれを全く新しいレベルに持っていきます。聖霊がパウロを鼓舞して、このような詳細を含めるのが興味深いと思いませんか？神はこの約束をしてくださったのです。お～ところで、神は嘘をつけません。「神は嘘を"つかない"」というわけではありません。それは神が、嘘をつくのが可能だとは示唆するからです。そうではなく、神は嘘をつくことが御出来にならないのです。不可能なのです。神は嘘をつくことが御出来になりません。さて、なぜそれが重要なのでしょうか？初めて読むときは、当たり前のことを言っているように思えるかもしれませんが、

しかし、そうではありません。ここでパウロが言っているのは、「神がその言葉をあなたがたに与えてくださった。」ということです。「神が、あなたに、そのお約束をしてくださった。」約束とは？「永遠のいのちの望み」です。間違いありません。(You can take it to the bank/直訳：銀行に持っていきます。)

実際は、今は銀行に行くのは止めた方がいいですよ。額をスキャンされますから。－(笑)－

しかし私にとっては、パウロが、神は嘘をつかれないと言い、このことを書いたときの力強さなのです。神は嘘をつくことが御出来になりません。その彼が、あなたにこの約束をされたのです。この約束は "その通り、アーメン" です。決定事項です。ここでなぜ私が、特にこれを取り上げたいかという、前述の「知る」という言葉を強調しているからです。なぜなら、私たちがそれを"祝福された希望"と呼んでも、もちろん問題はないのですが、しかし問題は「私はそう願います。」と言うような考えが含まれてしまうことです。「そう望んでいます、本当に望んでいます。」違います。それがここで言うところの希望ではありません。これは、嘘をつくことが御出来にならない神からのお約束だからこそ、唯一の希望、唯一の真理なのです。それは、どちらかと言うと、「それは、あなたが望んでいる事ですか？」「いえいえ、それ以上です。」「私は、望むだけじゃありません。知っているのです！」「知っているのです。」「どうして知ってるの？」「ただ知ってるんだ。それが"真理の知識"だから。」知識です。私は知っているのです。だからこそ、私には希望があるのです。知るという言葉の意味が「知る」という意味であれば、再度深遠なのは知っています。ならば、永遠の命があるのを知っているという絶対的な確信を持てるのは、当然ではないでしょうか？ 言い換えれば、陪審員はもういない、判決は出たということです。私たちは、知ることができるのです。間違いありません。疑問符はありません。疑問はなく、曖昧さありません。不確実性はありません。

**「神の御子の名を信じているあなたがたに、これらのことを書いたのは、永遠のいのちを持っていることを、あなたがたに（言いますよ）"分からせる/知らせる"ためです。」第一ヨハネ 5 章 13 節**

「牧師先生、なぜあなたはこの言葉についてそんなに動揺しているのですか？」いいえ、私は動揺していません。多分少しだけです。「知る/分かる」の重要性を知ることは最も重要です。「知る」ことの重要性を知らなければ、来ようとしている事が、あなたを吹き飛ばしてしまうからです。もしあなたが知らないなら、「私には分からない。」と言うような疑いが少しでもある場合は、あなたは大きな問題を抱えています。「あなたは知らないのですか？」「いいえ、私は知りません。」いいえ、あなたは知る必要があります！「あなたは知っているかもしれませんが、あなたは知らないのですか？」「いいえ。」最後のは"know"(ノー)ではなく、"No"の方のノーです。今日の私はうまくやっていますね。それで、皆さんは知って (k-n-o-w/ノー) いますか？ なぜパウロはすべてのことに耐えることができたのでしょうか？ ところで、パウロが耐え忍んだことを見ると、私たちが耐え忍んでいること、この先耐え忍ぶかもしれないことが、何でもないことのように思われませんか？ そうですね？ ですから、もし私たちが教えを受け入れる者であるなら、彼には、私たちに教える権利があると思います。繰り返しになりますが、彼が耐え忍ぶことができた成功の秘訣です。明らかにパウロは何かを伝えようとしていますね？ 私たちがよく言うように、「あなたは、私の知らないことを知っているのですか？」まあ、この場合はそうかもしれません。では、何を知ってるのでしょうか？ これが私の知っていることです。**「ヤコブの手紙 1 章 2 節と 3 節」**です。皆さん、この節をご存じですね。皆さん私同様なら、そうだと思いますが、この節は、お好きじゃないでしょう。牧師として、それは悪いことだと分かっています。正直に告白しなければならぬのは、クリスチャンになったばかりのころ、私はこの節が大嫌いでした。マズいですか？ 強い言い方である

ことは分かっていますが、事実です。私はただ、皆さんにオープンにお話ししているのです。なぜなら私は、ヤコブの語っていることがよく理解できなかつたからです。

**「私の兄弟たち。様々な試練にあうときはいつでも、この上もない喜びと思いなさい。」**

ここで止めます。「原語でそう言っているはずがない。」なので、ギリシャ語の学びをしましょう。「私が思うに、これは原文からの翻訳が悪いだろう。」ヤコブが言うべきだったのは、「私の兄弟たち。……この上もない”地獄”だと思いなさい。」そうですね？ そんな霊的で、清らかな、敬虔な目で私を見ないで下さい。正直になりましょう。皆さん、教会にいるのですから。あなたがたの試練に直面する時、ただの喜びではなく、この上ない喜びだと、思えますか？ 人生の嵐が襲ってきた時の、激しい試練、生死に関わる試練です。怖いです！ あなたはこんな感じです。「神よ、あなたは何をなさっているのですか？」それとも、これはどうですか？「神よ、”なぜ”こうなさっているのですか？」どうすれば良いのでしょうか…、つまり、良いですか、これは神の御言葉です！ ですから、原語で調べてみると、「この上ない喜び」は「この上ない喜び」となっています。なので、この上ない喜びと思いなさい。良いですか？ 私はヤコブがそこで止めないことを、嬉しく思います。なぜなら、もし彼がそうしたならば、こうなるからです。

**「私の兄弟たち。様々な試練にあうときはいつでも、この上もない喜びと思いなさい。」**

分かりました。じゃあ、私は明日から始めます。違います。神は、聖霊によって私たちに力を与えられることなく、私たちを召したり、御言葉の中で何かをするようにお命じになることは決してありません。それは彼がお出来になれない、もう一つのことです。神は、悪を使って誘惑することはお出来になりません。神は私たちの人生の中で、私たちが失敗して倒れ、神に対して罪を犯すことを助長するような状況に私たちを置かれることは決してありません。実際は、その逆が真実です。彼は常に私たちのクリスチャン人生の中で、私たちの従順を促す環境を作ってくださいなのです。神の召しは、神による特別の権能だと言われています。ですから、聖書でこのような一節を読むとき、神が私にこのことを語っておられるなら、神は私にこのことを行う力をも与えようとされていることを知らずに、読むことは出来ません。そうでなければ、それは神の善良さや神の愛と矛盾するからです。それは矛盾し、神のご性質と相容れません。もう一度考えてみてください。これはあなたが御言葉の中にいる時にする、健全なことだと思えます。なぜなら彼は、あなたの愛に溢れた天の御父だからです。地上の親としての文脈で考えてみてください。地上の父親として、あなたは自分の子どもをどれほど愛しているのでしょうか？ あなたの子どもの最善をどれほど望んでいるのでしょうか？ それならなおさら、天の御父は、あなたにとって最善のものをどれほど望んでおられるのでしょうか？ イエスはその例え話や、聖霊の話をされていた時にも、天の御父は求める者に聖霊をお与えになると仰ったことを考えます。(ルカ 11:13 参照)

そして、それは非常に興味深いです。好奇心をそそられます。なぜなら、彼はこう仰っています。

「地上の親であるあなたは、自分の子どもが求めるときに良い贈り物をする方法を知っています。つまり、子ども達がパンを求める時に、石を渡すことはしないでしょ。彼らが魚を求める時に、彼らにヘビを与えることはしないでしょ。」(マタイ 7:9,10、ルカ 11:10 参照)

想像できますか？ 「ねえパパ、僕、美味しい、スパイシーなアヒポケの魚を食べたいんだ。」「…もちろんだよ…」ぼやけた表現なのは分かっています。要点は分かりましたね？ 分かったと言ってください。それならなおさら、天の御父はどれほどあなたに聖霊を与えることを望んでおられるのでしょうか。ただ求めるのです！ ヤコブはこう続けています。

「あなたのものにならないのは、あなたが求めないからです。」(ヤコブ4:2参照)

それは、私の霊的背筋を震えさせます。なぜなら、私のものだったすべての物事は、私が求めたものなのだろうかと思うからです。そして、イエスは仰いました。「あなたが求めるものは何でも、…」 「何でも私に求めなさい。」 何でも？—そうです！

「もし、それが御父に栄光をもたらし、私の御心に沿うものであるなら、あなたに与えられます。」  
本当ですか？！何でも？「はい。」「あの…、牧師先生。失礼ながら、私は長い間祈りましたが、神はその祈りに答えてくださらなかったのです。」 いや、彼はその祈りに答えて下さったのです。あなたがただ、その答えを気に入らなかつただけです。良いですか、神はその祈りに答えられました。「はい」「いいえ」もしくは…「待ちなさい。」と。しかし、私たちは待つことを嫌います。彼は祈りに答えられたのです。ところで、私たちが祈ることの多くは、神がそれらの祈りに答えて下さらない方が良い祈りです。私は天で、私たちのことを担当している御使いの姿を思い浮かべます。ここで私たちは無邪気に祈っています、「ああ、神様…」そして、ここで御使いたちが、「ダメだ！そんなこと祈っちゃいけない！そんなものいらないでしょ！」これが、人々がこう言う理由です。

「私は神が祈りに答えて下さったことに感謝していますが、しかし、ある意味では、神が祈りに答えて下さらなかったことに、私はもっと感謝しています。なぜなら、もし神が私が祈ったように答えてくださっていたなら、壊滅的なことになっていたでしょうから。」これに関して、まだ続きますので、どうかご辛抱ください。ですから、この上ない喜びと思いきましょう。良いですね？

「えっと…牧師先生。私は何が起こるのか分かりません。彼らはワクチンを義務付けるつもりで、私は雇用と収入を失う可能性があり、家を失うかもしれません。そして、あなたは『この上ない喜びと思いなさい』と仰っています…」私はそう言っていません。ヤコブがここでそう言っているのです。分かりました。では「どうやって？」一言で言えば「知ること」です。「知る」なぜなら

「あなたが知っているとおりに…」(3節)

望みでも希望でもなく、確かにうまくいくことを願っている、でもありません。違います。あなたは知っています！「私が？」—はい、あなたは知っています。「私は知りません。」あなたは知っています！

「…信仰が試されると、忍耐が生じます。」(3節)

待ってください、何ですって？「私がこの試練に耐え、この上ない喜びと思う方法は、試練を乗り越えることだと言っているのですか？」そうです。「それが、あなたの言いたいことですか？」—いいえ、私が言っていることではありません。ヤコブがそう言っているのです。「主よ、私には忍耐が必要です！」良いでしょう、ここで試練がやって来ます。なぜなら、それが忍耐を得る方法だからです。

「主よ、私はそれをこの上ない喜びと思う必要があります！」わかりました、ここで試練がやって来ます。なぜなら、それがこの上ない喜びを知る方法だからです。ちょっと待ってください。それはどのように作用するのでしょうか？ それはどのようなものなのでしょうか？ それは今日、私にどのように当てはまるのですか？ そして明日の朝、地獄のような目覚まし時計が鳴るとき…今朝の私の目覚まし時計のように、私は目覚まし時計が大嫌いです。皆さんに知っておいて欲しいのは、天国には目覚まし時計はないという事です。それは、現実に戻させます。そして、私は明日直面することが分かっています。そして、それは悪化していつています。そして、私はそれをこの上ない喜びと思わなければいけないのですか？—はい。では、パウロはどのようにして忍耐したのでしょうか？彼は知っていたからです。どのようにして、私は忍耐するのでしょうか？私は知っているからです。私は知っています。「あなた

は何を知っているのですか？」私は、どのように終わるのかを知っています。私は神が良いお方であることを知っています。間違いありません。疑いの余地はありません。私は信仰によって知っています。ところで、それは”盲目的な信仰”ではありません。これは知的な信仰です。私たちには、神から与えられた知性があります。

「イザヤ書1章」聖霊に鼓舞されて、預言者が書いている箇所、神は彼の民に嘆願されます。「来なさい。」「こちらに来なさい。分別をもちましょう。」「一緒に考えてみましょう。」「私はあなたに考える能力を与えたのです。知的に、分別をもちましょう。一緒に考え、これを解決させよう。」あなたは知ることができ、知ることには疑いの余地はありません。説明します。そしてこれは重要です。なぜなら、もし少しでも隙間や亀裂があるなら、疑いが入り込んでくるからです。そこで、こんなことが起こるのです。

「うん、私は知っている、知っている...”しかし...”」それには問題があります。私はこれを、非常に慎重にお話ししたいと思います。「しかし」が、間違った位置にあります。そうとしか言えません。例えば、「私は、神がすべてのことを共に働かせて、益としてくださることを知っています。しかし、今月は仕事があるかどうか分かりません。」あなたの「しかし」は、間違った位置にあります。私は愛をもってお伝えしています。何が言いたいかわかりますか？ 替えてみましょう。逆になってしまっていますから。

「今月は仕事がないかもしれません。しかし...！私は、神がすべてのことを共に働かせて、益としてくださることを知っています。」今、あなたは正しい位置に「しかし」を置きましたね。こう言うのはこれが最後です。あまり聞こえが良くありませんでしたから。「しかし、神は」神が最終決定権をお持ちなのです。「どうしてわかるんですか？」なぜなら、私は信仰によって知っているからです。質問をさせてください。締めくくりたいと思います。これが正しいかどうか見てみましょう。自分自身のこととして語ります。私はこの件に関して人と同じほどの罪があり、このことについて説教もします。説教者を説教することを実践するようなものです。それを聞くたびに1ドル得ていたら...とにかく、私はおそらくもっと新しい車に乗っていたでしょう。私は神を信頼しています。私は自分自身のことを語っています。私は神を信頼しています。あのラッパが鳴り、キリストにある死者が最初によみがえり、そして、生き残っている私たちが、空中で主に会うために、引き挙げられ、携挙されます。私はそのことについて、神を信頼しています。にも関わらず、私は来月の家賃のことで神に信頼することが出来ないのですか？ ああ、あなたは知らないのですか？ もしあなたが知っていたなら、そうなら...！この上ない喜びと思えるでしょう。なぜなら、結末を知っているからです。あなたはどのように終わるか知っているのです！ 繰り返しますが、それは狂気の世界で自分の正気を保つことです。この世界は正気ではないですよ？ 日を追うごとに、さらにおかしくなってきましたか？ もし私が主を知らなかったなら、何をしていたかわかりません。それはただ、主を知らない人々への思いやりと恵みをあなたに与えないのでしょうか？

主を「知らない」人々は、どのようにこれに対処しているのでしょうか？ 彼らは対処できていません！もし私が主を知らなかったら、私は何に頼ればいいのでしょうか？ 何の希望がありますか？ 希望はありません。なぜなら、私は知らないからです。しかし私は、神は良い方であることを疑いなく知っています。そして、彼は私を愛し、彼は私の身に決して何も起こされません。彼が許さない限り、私の髪の毛は一本も落ちません。神は、私が望んだより少し多めに、私の髪の毛が落ちるのを許されましたが。お立ちください。賛美チームはあがって来てください。祈りで締めくくりたいと思います。私はただ、今日ここにいる方々を、今日これを聞く必要があった方々を、励ましたいのです。これはあなたに対する主の御言葉でした。オンラインでご覧になっている方で、非常に落胆されている方がおられたかも知れません。

落胆は絶望へと繋がります。神は絶望のゆえに、人を責めたりなさいません。聖書の中の多くの人は、人生に絶望していました。使徒パウロでさえ、私たちが見たように、人生に絶望しました。しかし、神は。正しい位置に"しかし"を置いてください。それがどれほど悪くても、まず自分の状況を置きます。そしてそれは確かに悪いです。そして次にこう言うのです。「"しかし"、私は私の神が良い方であり、唯一の、常に良い方であることを知っています。彼がそれをどうなさるか分かりません。彼がなさろうとしている方法も分かりません。私は、彼がそれをいつなさられるのか、全く分かりません。今や、いつでもいいです、主よ。しかし、私は彼がそれをなさることを確実に知っています。なぜなら彼は、出来ないが御出来にならないのを私は知っているからです。祈りましょう。

天のお父様、本当にありがとうございます。真理の知識。イエス様、あなたが真理です。それゆえに、それはただの祝福された希望ではなく、祝福された事実であり、祝福された真理であることを私たちは知っています。ですから、主よ、感謝します。主よ、苦悩し、傷ついている人々のために祈ります。彼らの心を励まし、力づけてください。彼らが、決して他では知ることのなかった方法であなたを知りますように。彼らが想像もしていなかったような喜びの杯を深く飲みますように。主よ、ありがとうございます。イエスの名によって、アーメン。

---

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7